

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第155号(2020. 2. 1)
事務局 川西地区自主防災会

防災と人口減少対策を連携して、 災害に強い人づくり、地域づくりを同時に進めよう

香川大学創造工学部教授 長谷川修一

約20年後の2040年、日本あるいは香川がどうなるか、未来から考えてみましょう。

日本では現在1年で約40万人（高松市相当）が減少し、このまま人口減少が進めば、20年後の2040年頃には1年で90万人（香川県相当）が減少すると予想されています。しかも、現役世代3人が2人の高齢者を支えないといけない超少子高齢化社会の到来です。

人口減少の最大の要因は東京一極集中です。地方から人口が一気に流出するのは大学へ進学する時です。東京一極集中は、地方から若者を引き寄せ、地方から仕送りのお金を吸い上げて、地方を衰退に導いています。また、卒業後は、東京圏に就職するため、地方の人口減少が拡大します。一方、東京圏では地方と比べて婚姻率、出生率共に著しく低いので、日本の少子高齢化の元凶になっています。もし、すべての親と高校が、東京圏の偏差値の高い有名大学に入学させようと、立身出世を目的にした教育を行えば、地方は滅びます。

首都直下地震やスーパー台風による首都水没を想定すれば東京一極集中は致命的です。また、南海トラフ巨大地震は、よく今後30年以内に70~80%の確率で発生するとされます。しかし、これは20年以内に50%程度の確率で発生することを意味しています。となると、20年後にはいまより少子高齢化の香川県を南海トラフ地震が襲って、災後の破局的な状況になっていることを想定して、南海トラフ地震対策と人口減少対策を連携して、災害に強い人づくり、地域づくりを10年以内を目標に進める必要があります。

では、進学先・就職先を東京圏に求めない子供をどのように育てるのか？それは、受験勉強に必須の普遍的な価値だけではなく、地域の価値を身につけてもらうことだと考えています。地域には宝石となるような原石が埋まっており、それを発掘して、誇りになるように磨き上げる教育が地方を救うのではないのでしょうか？「讃岐ジオパーク構想」は、大地の成り立ちから讃岐と備讃瀬戸の世界的価値に気が付き、郷土に誇りを持つ人づくりを目指しています。

香川大学創造工学部は、工学部の文理融合の理念を更に発展させ、近未来の超スマート社会においても活躍できる次世代型理工系人材の養成を目指して、2019年4月にスタートしました。他の大学にない教育目標は、デザイン思考能力とリスクマネジメント能力の育成です。このため、デザイン思考能力に秀でた人材の養成を担う造形・メディアデザインコースとリスクマネジメント能力に秀でた人材の養成を担う防災・危機管理コースを新設しました。



防災・危機管理コースでは、学生が楽しみながら土地の成り立ちと防災について伝える「防災まち歩き（通称ブラハセ）」を2018年度から始めました。これまでに、高松市で高校生を2回案内し、倉敷市真備町では小学生を案内し、大好評でした。また、造形・メディアコースを担当する柴田悠基准教授らは、香川大学×小豆島夢プロジェクトチームを結成し、瀬戸内国際芸術祭2019の参加作品として、小豆島の中山農村歌舞伎小屋と肥土山農村歌舞伎小屋を舞台に小豆島の災害を背景とした演劇を上演し、好評を博しました。

2月16日の午後、高松市生涯学習センター「まなびCAN」で、「ブラハセ×ジオ・アート×讃岐ジオパーク構想連携推進シンポジウム」が開催されます。このシンポジウムでは、防災・危機管理コースのブラハセと、造形・メディアコースのアートと讃岐ジオパーク構想と融合させ、香川の魅力を若い世代に発信したいともくろんでいます。

 香川大学創造工学部主催

ブラハセ×ジオ・アート×讃岐ジオパーク構想 連携推進シンポジウム

ジオパークは大地の成り立ちから、地域の強みと弱みを知り、強みを地方創生に、弱みを防災教育に活用し、地域の持続可能な発展をめざす活動である。本シンポジウムでは、香川大学で取り組んでいる防災まちあるき（ブラハセ）、アートの視点から見た地域振興を讃岐ジオパーク構想と融合させ、地方創生の新たな連携体制の構築を目指します。

- 13:30-13:35 主催者あいさつ
 13:35-13:40 来賓あいさつ
 13:40-14:20 基調講演「讃岐ジオパーク構想は何を目指しているのか」
 香川大学創造工学部防災・危機管理コース教授 長谷川 修一
 14:20-14:40 防災・危機管理コース1、2年生による「ブラハセ」事例報告
 一高松市鬼無、高松城下、倉敷市真備町一
 日野田 圭祐、國土 真希、福井 文菜
 14:40-15:00 「小豆島農村歌舞伎舞台の風土に根ざした演劇」
 香川大学創造工学部造形・メディアデザインコース講師 柴田 悠基
 15:00-15:05 香川大学公認「讃岐ジオガイド」授与式
 15:05-15:20 休憩
 15:20-16:25 パネルディスカッション
 ブラハセ×ジオ・アート×讃岐ジオパーク構想の連携による地方創生
 コーディネーター：香川大学経済学部教授 原 直行
 パネリスト：小豆島狛犬探究会会長 山西 輝美
 伊吹小・中学校講師 篠原 五良
 香川大学創造工学部造形・メディアデザインコース講師 柴田 悠基
 香川大学創造工学部防災・危機管理コース2年生 日野田 圭祐



農村歌舞伎機敷（小豆島町中山）

令和2年
2月16日  **日**  入場無料
13:30-16:30
 ※ 受付は13:00から開始します。

高松市生涯学習センター
まなびCAN

（高松市片原町11番地1：ことでん「片原町」駅から南西へ徒歩1分）

※ 公共交通機関もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。

申込み・問合せ 香川大学創造工学部 長谷川、鶴田
 TEL 087-864-2155, FAX 087-864-2188, E-mail: tsuruta@eng.kagawa-u.ac.jp
 ※ 令和2年2月6日（木）までにお申し込みください（先着200名）。



防災まちあるき「ブラハセ」（高松市鬼無町）



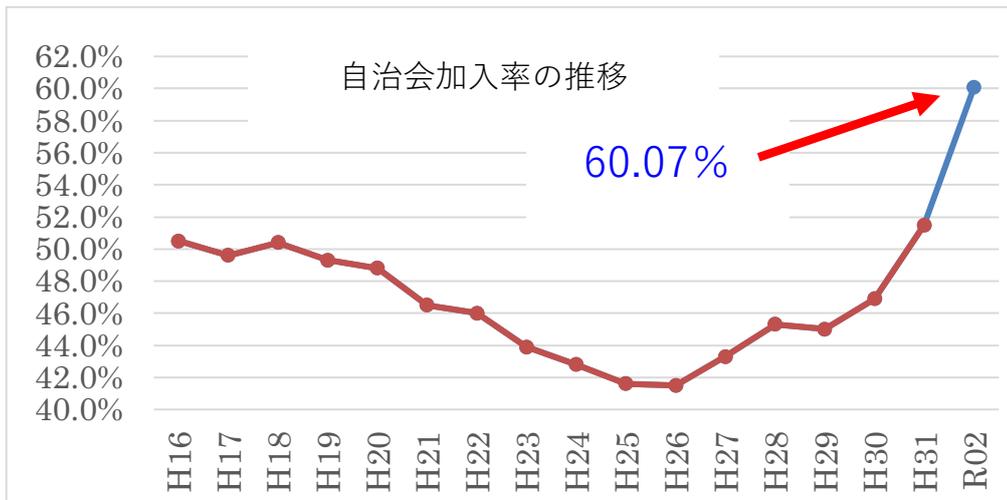
主催：香川大学創造工学部
 共催：香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、讃岐ジオパーク構想推進準備委員会
 後援：香川県、香川県教育委員会、高松市、高松市教育委員会、放送大学香川学習センター、NHK高松放送局、RNC西日本放送、KSB瀬戸内海放送、RSK山陽放送、OHK岡山放送、TSCテレビせとうち、四国新聞社、読売新聞高松総局、朝日新聞高松総局、毎日新聞高松支局、国土交通省香川河川国道事務所、（一社）四国クリエイティブ協会、日本応用地質学会中国四国支部、香川県技術士会、香川防災士会、かががわ自主ほう連絡協議会

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼうの近況をお知らせします。

丸亀市川西地区の HOT な情報！

かねてより川西地区(人口 6800 人 戸数 2715 世帯)において、自治会加入促進運動を展開しておりますが、待望の 60%台に突入しました。

平成 24 年 7 月 7 日にキックオフ大会を開催して、約 8 年の歳月を要しましたが当時自治会世帯数が 1100 戸、現時点(令和 2 年 1 月)においては 1650 戸となって率にしますと 60%を超えたものです。令和 2 年 1 月 11 日(土)訪問活動開始、午前 9 時 30 分コミュニティセンターでは、営業部隊のメンバー達が熱気に満ちあふれ今日中に 60%台に乗せるぞと言って、元気に出発して行きました。夕方 4 時すぎ、「本日 5 世帯目をゲット」しました。これにより、60%台になりましたと、現場から連絡が入りました。報告する声が高揚感に満ちあふれておりました。営業部隊全員が事務所に帰りしだい、梶丸亀市長に報告、市長から直接営業部隊にネグライの言葉をいただいたあと、お茶でカンパイし、しばらくこの数年のふりかえりを行なってお互いによく頑張ったとほめたたえました。



<川西地区 今後の取組み>

1. 令和2年度末(令和3年3月末)加入率 65%(加入戸数 1765)
2. 新しい自治会組織:コミュニティ自治会の組織整備
 - (1)現在の班数 10 コから 20 コに拡大
班長の保有世帯の減少、災害時の連絡体制を綿密化
3. 生活ゴミのステーション確保
 - (1)現在専用ゴミステーション 3 基を、8 基に拡大

編集後記

2月の防災減災の輪は、香川大学創造工学部教授 長谷川先生 の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。